

気管支洗浄液細胞診で *Scedosporium* 属を認めた一例

◎森 晴世¹⁾、本山 栞¹⁾、森下 拓磨¹⁾、戸莉 みゆき¹⁾、深野 香織¹⁾、山本 司¹⁾、濱田 智博¹⁾、榊原 沙知¹⁾
豊橋市民病院 中央臨床検査室¹⁾

【はじめに】*Scedosporium apiospermum complex* とは土壌や汚泥など自然界に広く分布する糸状菌である。免疫不全状態の患者では肺炎、髄膜炎などの日和見感染症をきたすことが知られている。今回、気管支洗浄液の細胞診で *Scedosporium* 属を疑い、微生物検査で菌種を同定した症例を経験したので報告する。

【症例】40代男性。多発性末梢型動脈狭窄に伴う肺高血圧症のため近医で加療中、約半年前に両側脳死肺移植をうけ免疫抑制状態だった。左足の蜂窩織炎を契機に撮影されたCT検査にて左下葉に空洞状病変がみられ、肺化膿症の診断で抗菌薬治療をうけるも増悪を示した。経気管支的内視鏡検査で気管支に黒色結節を認め、組織生検とともに気管支洗浄液が細胞診に提出された。

【病理所見】

〈細胞診所見〉パパニコロウ染色で炎症細胞と壊死物質を背景に、ライトグリーンに淡く染まる真菌の集塊が点在していた。グロコックト染色では嗜銀性を示す糸状菌が多数観察され、直角方向への菌糸の分岐や大型のレモン状の分生子が認められた。以上の特徴から *Scedosporium* 属を疑ったが、細胞診で同定することは困難であった。

〈組織所見〉壊死物質、炎症細胞とともに菌塊が認められた。グロ

コックト染色では菌糸の年輪様の層状構造がみられ、菌糸は隔壁があり太さは比較的均一であった。菌糸の先端にはレモン状の分生子が認められた。

【培養所見】気管支洗浄液から発育した菌のコロニーは白色綿毛状で、ラクトフェノール・コットンブルー液で染色し鏡検したところ分岐性の菌糸と分生子が観察された。外部検査機関に検体を提出し、*Scedosporium apiospermum complex* と同定された。

【考察】*Scedosporium* 属は臨床情報や菌糸の形態からアスペルギルスとの鑑別が問題となる。今回経験した症例では直角の分岐が存在すること、レモン状の分生子が認められたことが他の糸状菌との鑑別点として挙げられ、*Scedosporium* 属が疑われた。細胞診で真菌を認めたときには種々の菌の形態学的な特徴を念頭に置いて菌糸や分生子を観察することで早期診断に寄与すると考えられた。

【結語】気管支洗浄液細胞診に *Scedosporium* 属に特徴的な形態を示す真菌を経験した。

【謝辞】ご指導頂きました当院病理診断科 新井義文先生に感謝いたします。

豊橋市民病院 0532-33-6111 (内線 2229)